

# 学校におけるアレルギー事故対応時のポイント -奈良県版-

平成30年度中に、県教育委員会に報告された学校管理下で発生したアレルギー事故件数は55件で、そのうち給食を含む昼食中の事故は47件ありました。

これらの報告には、今後のアレルギー事故防止に役立つ教訓が多く含まれているとともに、共有することで、管理職、学級担任、アレルギー対応担当教員、養護教諭、栄養教諭等がそれぞれの立場で対応可能な役割を担えることが見えてきます。

本パンフレットには、各学校から報告いただいた事事例を基に、対応のポイントを示しています。児童生徒等が安全で安心な学校生活を過ごせるよう、各学校で作成しているアレルギー事故対応マニュアルの検証及び見直しの際に活用いただき、危機意識の向上や事故防止に努めてください。

アレルギー対応についての理解

シミュレーションで確認

## アレルギー事故対応の基本

症状出現時の冷静な対応

教職員間で連携して役割分担

### アレルギー事故対応の実際 10か条

- ◇ 教職員の招集と役割分担(アクションカードの利用)
- ◇ 管理職への連絡
- ◇ 保護者への連絡
- ◇ 食事内容のチェック
- ◇ 出現した症状の観察と新たな症状の出現に注意
- ◇ 緊急性が高い症状の把握
- ◇ バイタルサイン(体温・脈拍・血圧・呼吸数・酸素飽和度)の測定
- ◇ 症状に応じた体位の確保
- ◇ 軽い症状の場合は内服薬を服用
- ◇ 必要時には、アドレナリン自己注射



なんぶ小児科アレルギー科 院長 南部光彦氏より

奈良県教育委員会